

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 6月3日から4日にかけて、低気圧が日本付近を北東へ進み、低気圧から前線が沖縄付近にのびる。
- 5日は、低気圧がオホーツク海へ進む。
- 4日から6日にかけて、高気圧が東シナ海から本州付近を通過して日本の東へ移動する。
- 5日から7日にかけて、日本の南から沖縄付近にのびる前線が徐々に北上する。

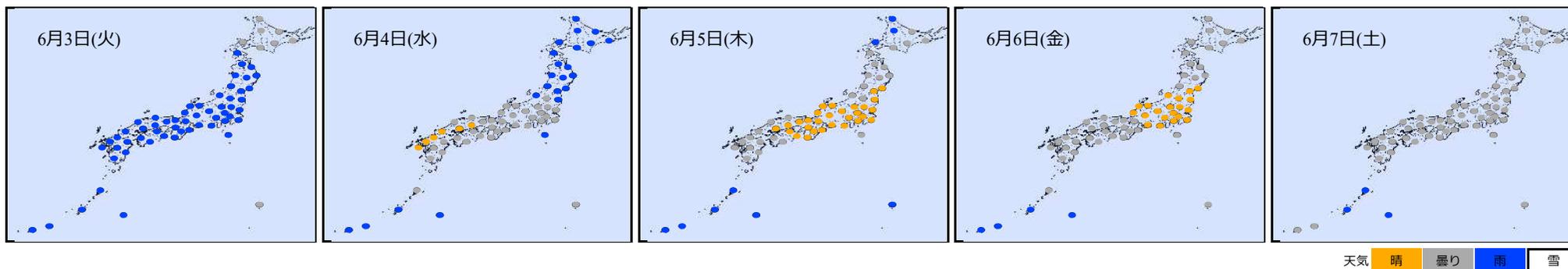
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 6月3日にかけて、西・東日本付近へ進む低気圧の発達程度等によっては、東日本太平洋側と西日本では警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

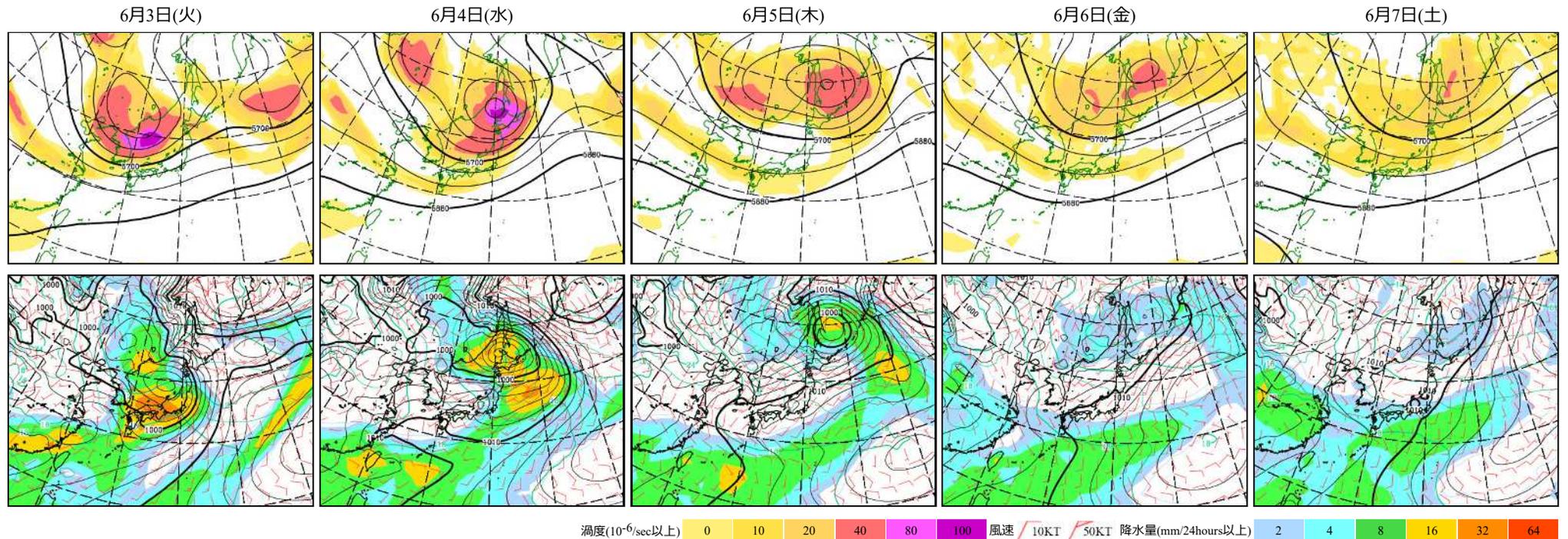
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

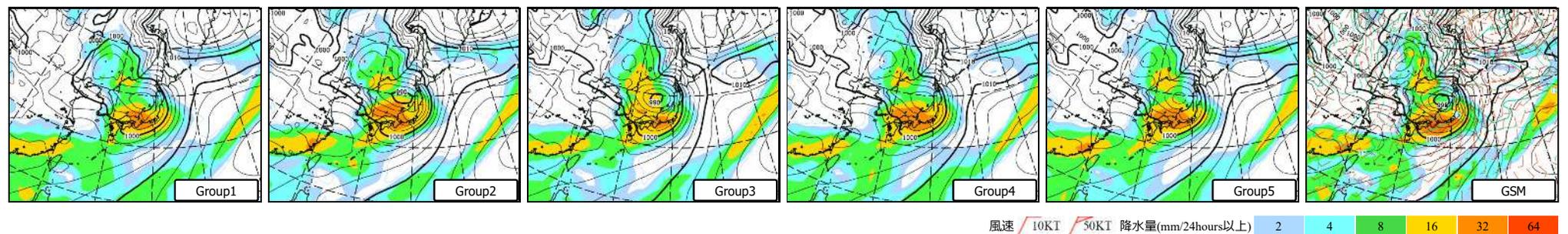


- 北日本は、雲が広がりやすく6月3日から5日に雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや晴れの日が多いが、6月3日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月3日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、6月3日から5日にかけて日本海からオホーツク海へ進む低気圧が発達する傾向となり移動が速くなった。5日頃は日本付近の気圧が高くなり本州付近は気圧の尾根となる予想となった。このため、5日は、東日本から西日本の降水確率ガイダンスの値が小さくなった所が多い。
- スプレッドは期間の終わりは大きくなり、特定高度線のばらつきも見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。